midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

June 2013 No.352-353

６月号の１枚：ムササビの巣を観察する体験学校

［巻頭言］　森林・林業の復権に向けて

健全な森林が持続するために必要なこと

　森林管理協議会の指導する「調和する環境・社会・経済」を念頭に「これまで15年」は、森林現場活動に傾注してきた。森を知ると言う意味では未だ、入口に差し掛かったと言う状態だが、活動16年目を経て「これからの15年、森林に経済性を創出する〝森林・林業の復権〟」をテーマにすることを考えている。わが国の「森林・林業の現状」からするとNPOには、余りにも大きすぎる課題だ。だが、不可能を可能としたNPOも有るじゃないか。NPOシーズの松原さんだ。国会に働きかけて1998年に「NPO法」を作り、昨年、「改正NPO法」に持ち込んだ。

　現状の森林を救わねばと言う、林野庁幹部の方の切々たる心情を吐露したお話を直接聞く機会を得た。胸が痛くなった。その他、森林・林業に関わる方々の林業が行詰まっている赤裸々な理由も聞かせてもらった。一般に国・林政は何をしているんだと言う批判、地方自治は怠慢だと言う不満を良く耳にする。本当にそうか。我々一般国民が、どれほど真剣に国の行く末を考え行動しているのか。現場では、色々な不備もあろうが国民が、国政、地方自治を一体となって〝自分自身の事として〟森林の保全・再生を真剣に考え行動しなければ解決できない。

　健全な森林が持続するためには、森林に健全なお金（経済）が回る仕組みつくりが必要だ。そのことは、３月号でも述べた。「経済を生み出せない政策は、絵そらごとだ」

　「森林・林業の復権」の手法を創出せねばならない。当会として具体的には、「さがみ湖 森モノづくり研究所」を立ち上げ、地産地消の手元のところから始めている。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2013.06

6月 2日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
　　持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
6月16日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
　　主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006179
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

5月5日（第一日曜日）

新緑の森に、温かい風が吹き抜ける、5月5日の小原での活動では、ForestNova☆から学年が一つ上がった11名と、新しい風を吹かせてくれるであろう、5名の新規参加者、さらに、静岡で林業の仕事をしているOBの齊藤さんの総勢17名が参加しました。

今回の作業は、二手にわかれて、丸太から板をとる製材班と、頂上まで伸ばした径路を修復する径路班の二つに分かれての活動となりました。小原の森についに、森林組合の手が入ったようで、ロープが張られていたり、区画が作られていたり、きれいな土留めがされていたりと、少し今までと景色が変わっていました。

そんな森を少し奥に入っていくと、沢を渡るための橋が架かっています。数年前、緑のダムの方が架けたもので、径路を伸ばす際には毎回渡ってきました。しかし、丸太が3本ほどかけてあるだけで、滑りやすく、多くの人が入ると危険があるので、今回、径路班はその橋を修復することになりました。

橋の先は、少し開けていて、以前そこで焼きシイタケや味噌汁を作って食べたことを思い出します。そこには、先の欠けた木が生えているので、それを伐り倒して橋の材料にすることになりました。初めて木を伐る人が多かったので、ゆっくり説明しながら丁寧に伐っていきます。そんな中、少し倒しにくそうな木を、OBの齊藤さん指導の下、伐っていくことなりました。学生時代に練習を積んだというロープ上げを見せてもらったり、林業としての木の伐り方や意識等を教えてもらったりしながら、見事に伐り倒してくれました。

午前中に5本の木を倒したので、午後はその木を使って橋を補修していきます。太さを見ながら、安定するように丸太を並べていくと、とても立派な丸太橋が完成しました。また、余った材を使って、橋と径路をつなげたり、土留めをつくったりして、人にとっても森にとってもいい場所になったと思います。

作業を終え拠点に戻ると、ヒノキとケヤキの材が５枚あり、製材班は、チェーンソーに苦戦しながらも、板を作ってくれて、これから何に使えるかと考えると、とてもわくわくしました。

様々な人の手が入り、森の様子が変っていると思います。私は3年間、団体としてはもっと長い間、緑のダムの方と整備してきた場所です。一つ一つの思い出を忘れないように、先輩方が作ってきた径路、そして自分たちが作った径路を踏みしめ、さまざまな意見、話、視野を取り入れながら、緑のダムの方と、新入生、OB、現役生と、森にかかわる全ての人の力を合わせ、より良い森にしていきたいと思いました。

望月　亜佑子（ForestNova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

5月19日（第三日曜日）

早春の花々が終わり、エビネ、クサノオウ、ウマノアシガタなどが咲き競う５月。今回の定例活動にはおそらく過去最多であろう１２４名の参加があった。高井戸中やフォレストノバの新１年生、麻布大学・原田教室、都市大学東京の学生、加えて生命の森宣言東京の団体での来訪が大きい。

生命の森宣言東京の目的はまずは会員に森に親しんでもらうこと。結果、嵐山に来てくれる人が増えてくれればとの目論見もあるようだ。午前中は体験学校長・斎藤さんによる森林散策。ベテラン校長のお話はたいへん有意義であったとは参加者の弁（いつものことです）。午後は間伐体験

とボサ刈りを行った模様である。

私はノバの芦田梢さんとチームを組んで、やはり森林散策。相模原市立環境情報センターの秋山さん、ＮＰＯ法人チャレンジクラブの西川ご夫妻に参加して戴いた。カブトムシ牧場を初め養蜂場、ノバの森、なみすけの森、望星の森をぐるりと一周。芦田さんの丁寧な説明に皆熱心に聞き入っている。寺跡付近ではマツオウジを発見。「食菌」と図鑑に書かれていることもある白く美しい大型キノコだが、時に下痢を引き起こすこともあるので安易に食べないほうがよいだろう。それはともかく、こんなキノコも生えている森の魅力を感じて戴けたなら何よりだ。６月３０日（日）、ミウイ橋本（橋本駅直結）で開かれる「相模原市環境まつり」には当会も深く関わるので、秋山さんに嵐山の森、活動の様子などを実際に見てもらえたことは有り難い。

お昼、腹ごしらえを済ませてからは本日のメインイベント「森の音楽会」の始まり。チェロや笛の演奏・朗読は星ご夫妻。実は石村さんの姪ごさんとそのご主人なのである。シューマン「トロイメライ」、ハイドン「アダージョ」を皮切りに、詩人・宮沢賢治の曲メドレーと朗読が続く。「月夜のでんしんばしら」「セロ弾きのゴーシュ」などなど、賢治作品のファンタジーが森の樹々にこだまする。締めはシューベルト作曲「菩提樹」。絵でも音楽でも、すぐれた芸術作品は自然の中に置かれたときに違和を感じさせないということがなんとなく解るようなひとときだった。参加者の疲れもしばし癒されたようである。

午後からの作業、これも活発であった。高井戸中は「なみすけの森」で間伐。スギの木を若い力で５、６本伐り倒した。いつもながらあっぱれ！　望星高校は植栽したトチノキに付けたナンバーの確認。ノバも原田教室の学生を交えての間伐体験。お花畑班は草刈りや生垣づくりを継続。有り難かったのは山の神様から作業基地に至るまでの径路を補修してくれた森林整備班。まる一日がかりの作業でお疲れだったようだが、おかげでこれまでより格段に歩きやすくなった。感謝、多謝。

活動後にはフォレストノバと一般会員との交流の場が設けられた。場所はもちろん相模湖駅前・かどや食堂。普段は作業に追われ、なかなかゆっくり話す機会がなかったため、互いにとってよい機会だ。麦やお米の発酵飲料こそなかったものの、ウィットとユーモアに富む各自の挨拶・自己紹介、果ては井伊さんの詩吟まで飛び出し、会は大いに盛り上がった次第。若者たちとおじさんたちがこんなに和気合い合いと時を過ごすことは普段の生活ではまずないだろう。これも嵐山の森のもつ力かもしれない。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
Forest Nova☆
新入生自己紹介

今回は新入生７人にForest Nova☆に入ったきっかけ、今後の思いについて書き綴ってもらいました。

わたしがForestNova☆に入ったきっかけは、環境系のサークルに入りたいと思っていた所に先輩から勧誘を受けたのが始まりでした。実際に触れ感じる中で、自然とは何なのか、自然にとって何が正しいのかを追求していきたいと考えています。また、多くの人と意見や価値観を共有しながら沢山のことを吸収し、自分にしかできないことを見つけていきたいです。健康管理に気をつけて、元気に楽しく活動していきます。（世持由美子）

私はもともと自然を通して人を癒すような仕事をしたいと思っていたところ、このサークルを見つけました。私はこのForestNova☆で環境教育や他大学交流などを通して人とのかかわりを大切にしていき、多くの人に自然の素晴らしさを伝えられるように知識をつけたいと思います。（安達佑真）

僕がForestNova☆に入った理由は、植物と自然が好きなことと、もうひとつの理由は環境問題が植物に与える影響に対して興味を持っているからです。
将来も、植物や自然に関係した仕事に就きたいと思っており、そのためにも視野を広げて勉強をしたくこのサークルに入りました。これからよろしくお願いします。（井上智仁）

私はもともと生き物や自然が好きだったので、大学で何かをやるのなら生き物や環境に関わることの出来るサークルや活動に参加したいと思いForestNova☆に入りました。この活動を通して、人がずっとお世話になってきた森を悪い状態にしないために森にとって何が良いことなのかを知り、他の人にもそれが伝われば良いなと思います。まだまだ知らないことが多く他の方々に迷惑をかけてばかりですが、これから勉強し色々な知識を付けて、役に立てるように頑張りたいです。（川崎茜音）

私はもともと、自然が好きで環境系の麻布大学を受けました。この大学に入ったからには何か自然に関わることのできる活動をしたいと考えたときに、Forest Nova☆の活動を知りました。森に目を向けてみると、森への関わり方は一つだけではないと知り、改めて自然に関わることの面白さを感じています。まだ、将来の仕事をどうするかはっきりとは決まっていないのですが、森や海、河川など幅広い視点で環境保全や、それらに携われるように様々な活動を通して、少しずつ知識を蓄えていきたいと思っています。（芹澤礁）

私がForestNova☆に入った理由は、まず自分が自然や環境や生き物がとても好きだったからです。これからForestNova☆に入って環境についてを学び活かしていこうと思います。よろしくお願いします。（新井一起）

私がForestNova☆に入った理由は自分を見つけるためです。私はまだ将来のことや、これからのことが全く見えてません。
ForestNova☆で森やそれに関わる人々を通して自分のやりたいこと、また自分がやりがいを感じることを見つけたいと思っています。今はまだ実際に森での活動に参加できておらず、知識も乏しいですが環境や土壌、動植物などにはとても興味があります。これからどんどん知識を身につけていきたいと思います。よろしくお願いします。（福原崇聖）

[報告２]
相模湖嵐山の森、初参加者感想から

今回は高井戸中学校地球環境部１年生男子の感想をご紹介します。

僕は初めて森に行って思ったことは一本の木を切るだけでこれほどの感動と喜びが感じられるということです。僕は森に行く前は木を切るなんて疲れることだと、木を切ったときの喜びに気づいていませんでした。ですが森に行って自分で木を切ってみるとのこぎりの刃が木の株に入っていく感覚がたまらなく気持ちよくそして手がしびれました。

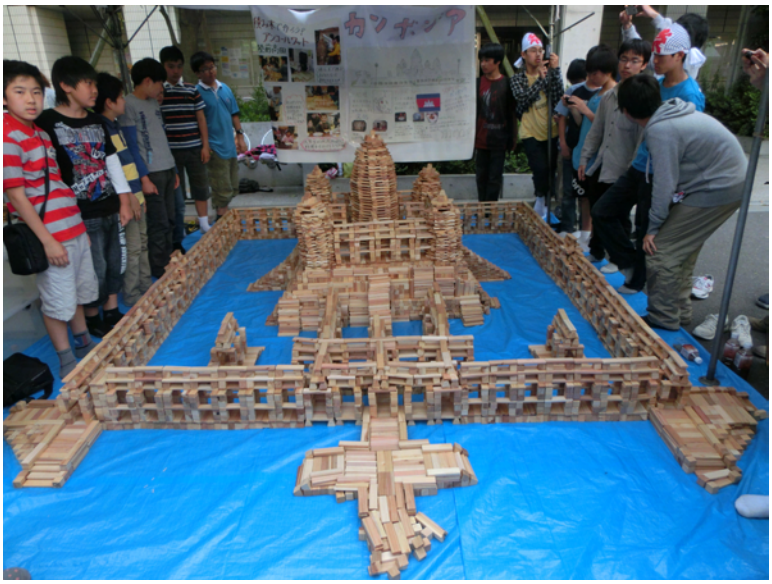
木を切る前の疲れしか感じられないという気持ちから木を切ることで一転して木を切ったときの感動と社会に貢献したような達成を感じられました。森に行くことで自分の自然に対する考えを変えることができました。とてもいい経験になりました。（１年男子）

僕は、初めて森へ行きました。外からは、緑でいっぱいだった森も、五分歩いて中に入るだけで地面に土しかないという光景を見て驚きより先に悲しみが湧き出てきました。そして、もっとこの森をきれいにしたいなと思いました。
そして、実際に木を切ってみました。切り方は先輩がやさしく教えてくれたので、よかったです。

一番印象に残ったのは、倒した木から出ている小枝を取ることです。一見、簡単に見える作業が実際にやってみると意外と切れない小枝があって、驚きました。最後に、山から木を下ろす作業をしました。僕は、三年生の先輩三人といっしょに下ろしました。先輩は、わざとゆっくり歩いてくれて、親切だなとおもいました。この経験を活かして、もっと森のことを勉強したいです。（１年男子）

これから夏にかけて暑さのなか作業もしんどくなっていきますが、その中での発見や喜び、達成感を感じてもらいつつ森の作業を進めていきたいと思います。
宮村　連理（本会、理事）

[報告３]
上智大学ASF2013写真でご紹介



上智大学で行われたオールソフィアンズフェスティバルの様子を写真でご紹介します。

上智大学アジア人材養成研究センターご指導のもと、杉並区立高井戸中学校地球環境部の生徒が中心となり、アンコールワットを制作しました。

[事務局からのお知らせ、お願い]

相模原環境まつり講演会のお知らせ

相模原環境まつりで以下の講演会を予定しています。

（１）日時：平成25年6月30日10時30分～12時15分
（２）場所：杜のホール橋本８階多目的ホール
（ＪＲ横浜線 橋本駅北口『ミウィ橋本』８階 ）
（３）定員：２００名（当日先着順）
（４）講演会スケジュール
1.挨拶：相模原市緑区長で調整中（3分）
2.講話：公益社団法人大日本山林会会長 箕輪光博 様（15分）「社会共通資本としての森作り」
3.講義：東大大学院 森林利用学研究室 酒井秀夫 教授（60分）「林業のサプライチェーン」
（概要）相模原市の林業の可能性について、「森林資源とマーケット」「林業のインフラ整備」「森林の価値を如何に高めるか」等、国内林業及びヨーロッパ林業の知見から解説する
4.ディスカッションｏｒ質疑応答：酒井先生(調整中)（15分）

第11期通常総会を開催します

日時：6月16日午後４時～
（通常の定例活動後に行います）
場所：県立相模湖交流センター
備考：活動16年目に入ります。「これから15年活動目標」を検討します。真剣な意見交換のために沢山の参加を希望します。（＊出席できない方は、同封のハガキ・委任状を必ず返信下さい）

定例活動やイベントの様子が動画にてご覧頂けるようになりました

本会の定例活動や様々なイベントを動画でご覧頂けるようになりました。YouTubeで「緑のダム北相模」と検索していただくか、本会Webの定例活動（blog.midorinodam.jp）でも埋め込み動画でご覧頂けます。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス
協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版